

見捨てられた人のホスピス

家族としてともに生きる空間

山谷に「きぼうのいえ」がオープン



「きぼうのいえ」＝東京・山谷

行き先がなくなったホームレスの人々を対象にしたホスピスケア施設「きぼうのいえ」が10月1日、東京・台東区山谷地区にオープンした。同施設は、NPO（非営利組織）「山谷・すみだリバーサイド支援機構」の運営で、この運動を企画し、施設長を務めるのは、カトリック信徒の山本雅基さん（ひと）と、参照。すでに3月にはホームレスの人の入居施設「なかよしハウス」の運営も始めている。これらの活動のため1億円の使用が必要で、幅広い支援を呼びかけている。

「きぼうのいえ」（東い高齢者や社会復帰の道設では3食を用意する。京都台東区清川2丁目29を絶たれた人が入所しての13）は、4階建てで、21部屋（全個室）ある。各部屋は4.7畳の広さ。冷暖房やナースコールなどの設備がある。「どこにも引取先がなかった人が対象なので、施設では3食を用意する。「味も自分が食べておおいような場所です」と山本

「訪問介護が必要なのは、ヘルパーに部屋に来てもらっています。基本的には、ここは終のすみかだという考えで運営しています。マサテレサの『死を待つ人の家』のこの施設の企画から立

「活動を始めると足立区で部屋を借りようとしたが、『とんでもない』と、みな断られてしまいました。住民説明会を開けば、つるし上げにされてしまうといった状態です。それなら自分で建てるしかないと考えたところ、ある不動産業者が『こういう活動をするなら山谷しかない』とアドバイスしてくれたので、この場所を選びました。

人、毎週1日のかかりつけ医が1人、アドバイザ1人のボランティア医師が1人と、3人の医師が協力している。

山谷でホスピス「きぼうのいえ」を立ち上げた

山本 雅基さん



1963年、神奈川県大田区生まれ。1985年、山手学院大学社会学部卒業。カトリック支援機構代表理事兼施設長。

「自分の役目を果たし、退職。次に目を向けたのは、ホームレスの人々とのかわりだ。」「住む場所のない人々を見捨てることに罪悪感を感じ、山谷へ「なかよしハウス」を立ち上げた。」「活動は、神学部の学生だったころ、「ファミリーハウス」という施設の立ち上げにかかわった。これは小児がんなどの難病の子どものための家族を支援する活動で、10年間ほどその働きに従事した。活動が全国的に認められるようになったこともあって、

資金面でもまったくゼロからのスタートだった。が、聖公会の下条裕章さん（浅草聖ヨハネ教会司祭）らが発起人・連帯保証人として協力してくれ

たこともあって、銀行から約1億5千万円の融資を受けることができた。今では発起人・宇野徹さん（聖公会首座主教）、植田仁太郎さん（同東京教区主教）、白柳誠一さん（カトリック枢機卿）、大津健一さん（日本キリスト教協議会総幹事）ら

も加わっている。山本さんは、「多くの困難が乗り越えられたのも、これが神の計画だ」という思いがあったからです。これからはホスピスケアのために尽くしたい」と語っている。

募金の協力は、郵便振替（0013003664844）か、銀行口座（東京シティ信用金庫・押上支店（普）0713971）で。加入者名は共に「山谷・すみだリバーサイド支援機構」。

「施設運営は初めてなので、どこまでケアするかを確かめながらやってきました。次第に、夜勤や土日の勤務が可能な人など、様々な条件を揃ってくれる人たちが集まってくれました。始めて2カ月、やっと流れが見えてきたという感じですが、困難の中、神は必要なものをそれ以上に与えて下さることを実感しています。」（直）